

2015年度後期定期試験情報

最前線F “はじめて学ぶ海洋学”： 木曜日(3限)

最前線F “はじめて学ぶ海洋学”： 木曜日(4限)

最前線F “はじめて学ぶ海洋学”： 木曜日(5限)

開放科目12： 月曜日(3限)

海洋の科学および海洋地学：月曜日(3限)

2016. 1. 12.

横瀬久芳(yokose@sci.kumamoto-u.ac.jp)

受験対象者と試験会場（木曜日）

- 最前線F “はじめて学ぶ海洋学”：3限（受験者234名）
時間割コード：01575（木曜日3限受講者）
試験日 2月4日（木） 12:50－13:50
試験会場：教養C-301、教養E-107
（掲示を良く見て、受験教室を間違えない）
- 最前線F “はじめて学ぶ海洋学”：4限（受験者61名）
時間割コード：01574；57411（木曜日4限受講者）
試験日 2月4日（木） 14:30－15:30
試験会場：教養C-301
（掲示を良く見て、受験教室を間違えない）
- 最前線F “はじめて学ぶ海洋学”：5限（受験者53名）
時間割コード：01577（木曜日5限受講者）
試験日 2月4日（木） 16:10～17:10
試験会場：教養C-301
（掲示を良く見て、受験教室を間違えない）

受験対象者と試験会場（月曜日）

- 開放科目12：（海洋の科学） 月曜日(3限)
時間割コード：02811(理学部以外の受講者：83)
試験日 2月8日（月） 12:50～13:50
試験会場：教養C-301
（掲示を良く見て、受験教室を間違えない）
- 海洋の科学および海洋地学：月曜日(3限)
時間割コード：23411(理学部の受講者：52)
試験日 2月8日（月） 12:50～13:50
試験会場：教養C-301
（日付および受験教室を間違えない）

試験問題の形式

試験は、1時間で何れの講義も大問3題で構成される。第1・2問は、各講義で異なる。第3問は共通である。

第1問 記述問題(400字以上論述:配点 $40 + \alpha$)

第2問 三択問題

(50問:配点50であるが、不正解箇所は-10点、不正解数に応じて50点~-500点までの範囲を取りうる。)

第3問 感想文

“海洋学に対するイメージが、本講義を受講する以前と以後ではどのように変わりましたか? 200字以上で記述せよ。”

(配点 $10 + \alpha$:減点および追加点は第1問と同様のルールに従う。)

第1・3問は、盗作(インターネットや友人等)とみなされた場合0点となる。

各講義の論述問題テーマ

☆2月 4日(最前線F 3限受講者用):

“大陸棚に関連する海洋学的事象を複数個列記し、その一つに関して詳しく説明し、全体を400字以上で論述しなさい。

☆2月 4日(最前線F4限受講者用):

“太陽・海洋・大気の相互作用と地球環境”に関して400字以上で解説せよ。

☆2月 4日(最前線F5限受講者用):

“海洋環境の破壊と日常生活の関連”に関して400字以上で論ぜよ。

☆2月8日(開放科目12: 月曜日, 理学部以外)

“海洋生物における有害物質の生体濃縮と現代人の食生活”に関して400字以上で論ぜよ。

☆2月8日(海洋の科学 & 海洋地学: 理学部生)

“海水による電磁波の吸収と食物網”の関係について400字以上で解説せよ。

第1問の論述に関する採点基準

＜基本＞ 単なる感想文ではなく、きちんと専門用語を踏まえて論述する事。400字に満たない解答はすべて0点とする。論述に際して各パラグラフは、トピックセンテンス（論点）やコンクルーディングセンテンス（結論）を明確にすること。

＜減点要素＞

盗作（インターネット資料等と30%以上オーバーラップする）は、-40点～-100点

専門用語が存在しない論述（-20点）、誤字・脱字（-5点／1箇所）、誤った言葉の使用（-5点／1箇所）、殴り書きされた文字は、採点対象から除外する。

＜追加点要素＞

1. トピックセンテンス（Ts）とコンクルーディングセンテンス（Cs）が明確に認められるパラグラフ（5点／パラグラフ）
2. 内容の規定を満たし、400字を超えて論述した場合（0.05点／1文字）
3. 講義内容以上に詳しく調べて論述されている場合（10点）

試験に持参できるもの

- 通常の教養試験で認められている筆記具以外に、本講義所定の形式に合ったノートの持ち込みは認める。

<持ち込み可能なノート>

- 通常の大学ノートのみ持ち込み可

(ノートは、手書きおよび返却した小テストの貼り付けのみを認め、他人のノートをコピーし、貼り付けたものは認めないが、他人のノートを書き写しはOK)。また、コピー紙をクリップ止めしたものや、ルーズリーフノート、クリアホルダーなどは、不可)

- 教科書

補足：論述に際しての基本姿勢1

- 読者を想定しよう！

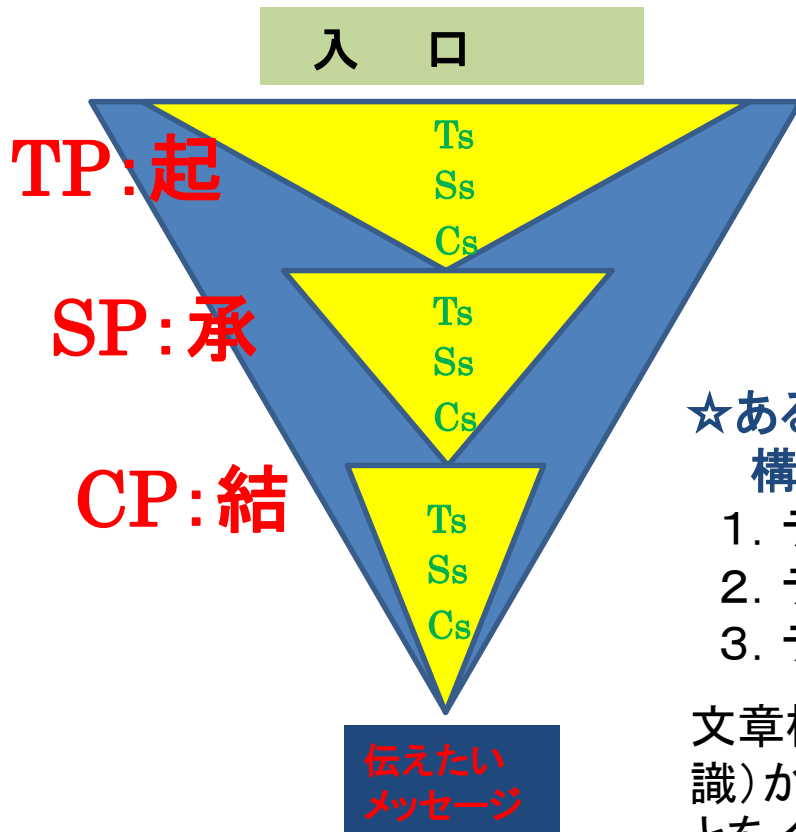
文章作成で一番大事なのは“誰に読ませたいのか？”という事です。

試験問題等における論述は、出題の意図を十分理解して、要求されている内容を的確に表現し、問題作成者に向けて書くメッセージです。この点、メモなどの自分に向けたメッセージや独り言とは大きく異なります。

文章(コミュニケーション)の大きな使命は、相手の**意思の疎通**を図ることです。

補足：論述に際しての基本姿勢2

- メッセージが伝わるように、論理展開が明確になるように記述する。論述は、逆三角形構造が基本。



☆パラグラフは、200字前後が目安で、下記の文章群が含まれる。

Ts: トピックセンテンス(起)

Ss: サポートセンテンス(承)
具体例なので複数の文章

Cs: コンクルーディングセンテンス(結)

☆あるテーマに関して論じる場合は、3パラグラフ構成が最も一般的である。

1. テーマとなる対象の提示(起): TP
2. テーマを具体的に記述する(承): SP
3. テーマに関するまとめを行う(結): CP

文章校正は全体として、広い視点(一般論や共通認識)から焦点を絞り込み結論に選択の余地がないことをイメージさせる。

うまくいくと、メッセージが相手の心に深く刻まれる！！